



“地震確率高まる”原子力空母危険いっそう!

文科省の「地震調査研究推進本部」が発表した、三浦半島断層群での「地震発生確率上昇」について、市民の間に不安の声が強まっています。

一方吉田市長は、「(市民は)ヒステリックにならず、一方で危機意識を持って欲しい」と述べて、2007年に作成した「防災マップ」も当面は改定しないそうです。

いみじくも、この「ヒステリック」という文言、つい最近も自民党の石原伸晃幹事長が「あれだけ大きな(原発)事故があったので、集団ヒステリー状態になるのは心情としては分かる」と述べ、訂正を余儀なくされたばかりです。原子炉2基を抱える原子力空母の徹底した情報公開・安全点検、原潜の相次ぐ寄港に中止、延期すら求めない吉田市長に「ヒステリー」よばわりされる覚えはありません。

第2回評議委員会で、活発な論議!

6/29に行われた第2回評議委員会では、三浦市でリフォーム助成制度がかちとられた情勢の中、活発な論議が繰り広げられました。

神奈川土建の三井書記長より、三浦市でのリフォーム助成制度獲得の詳しい経過が語られたのを始め、三浦市職労から、自治労連が展開中の公務員賃金切り下げ反対闘争の経過報告や、建交労による介護職場での新しい分会の設立など、力強い発言が続きました。

圧巻だったのは、GNF-Jでの放射性廃棄物漏れ事故を受け、船崎議長が発言を促す中、受けて立った葉山議長の発言でした。葉山副議長は、長年GNF-Jの近くで勤務してきた経験から、GNF-Jの体質と、この間の事故の内容を説明。さらにアメリカ

からの圧力が、日本の原子力行政を大きくゆがめた事を告発しました。会場からは、「早くやめる」のブーイングが起きましたが、発言を高く評価する評議員もいました。

横須賀市では、9月の議会に、リフォーム助成の請願が行われようとしており、まさに正念場を向かえます。横三労連では、横須賀市への要請行動に取り組む予定です。

第20回観音崎非核平和誓いのつどい大成功!

今年20回目を迎えた観音崎のつどいは、初めての室内開催でしたが、史上最高の100人近い参加で大成功を納めました。室内開催ならではの取り組みとして、映画の上映や、20年の歴史を語る展示物が好評を博し、また、福島の子どもの状況報告(菅沼みどりさん)、病気入院の予定を延期して松本から参加した、かしまのはるおさん(「命焼かれて」作詞作曲者)の訴えなどが、参加者の胸を打ちました。